

# CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 9. No.12 2007年6月15日号

編集:[editor@cna.jp](mailto:editor@cna.jp) 広告:[pr@cna.jp](mailto:pr@cna.jp) 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

## ニュース

イントラアシストジャパン、ビジネス用途に適し  
暗号化通信技術を搭載したIPテレビ電話機を  
発売



### assistfon(アシストフォン)

株式会社イントラアシストジャパン(大阪府大阪市)は、昨年8月よりビジネス向けのIPテレビ電話「assistfon(アシストフォン)」を発売。カスタマーサポートが付いたサービスも提供。

アシストフォンは、4インチTFTカラー液晶モニター、有効画素数62万画素のカメラを搭載。通信プロトコルは、H.323v3、SIPに対応。映像符号化方式にMPEG4方式、音声は、G.723.1、G.711を採用。複数のイーサネットポートを内蔵し使用通信帯域は、128kbpsから768kbpsまでをサポート。一般公衆電話用のポートも実装しているため通常の電話機としても使用が可能。

PPPoEやNAT機能を有したVPNルータを内蔵し1024bitの独自の暗号化方式に対応している。「1024ビットの暗号化は、既存のテレビ会議システムよりも強固な暗号レベルのため、公衆インターネットでのテレビ電話用途でも盗聴される

心配はなく、また、高精度のカメラを搭載しているため、安心して遠隔地間での高品質な映像コミュニケーションが行える。」(イントラアシストジャパン トータルマネージャー 西本喜仁氏)

アシストフォンは、パーソナルなテレビ電話用途とともに、会議室での多人数のテレビ会議用途でも活用ができる。映像出力端子やS端子/コンポジット端子をもつため外部テレビモニターやスピーカーに映像と音声を出力。そして、受話器はコードレスになっているため、会議室のテーブルにその受話器を置けば、簡易なワイヤレスバウンダリーマイクとしても使える。6-10人程度の会議室テーブルであれば十分に音を集音できるようだ。

「既存のテレビ会議システムはまだ高価だ。低コストで簡易に使えるレベルまでにはなっていないと当社では見ている。それに対して、アシストフォンは、オープンプライスではあるが実売価格は、10万円前後。低価格ではあるが必要な性能と機能をもっており、廉価なテレビ会議システムと考えればコストメリットは高い製品と考えている。」(同 西本氏)

テレビ会議システム用途を想定していくつかの画面モードにも対応しており、相手の画面と自分の画面を1/4サイズ、相手の画面を全画面に表示、あるいは、相手の画面を全画面表示した中に、自分の画面をピクチャーインピクチャー(PIP)方式で表示することもできる。

操作メニューは、画面上にメニューアイコンでわかりやすく表示。電話機にあるリング状の移動キーボタンを押したりすることで、メニューを選択することが出来る。画面上には、設定、電話帳、通話記録、IP通信などのメニューがアイコンで表示される。機能としては、短縮ダイヤル、通話記録や電話帳を利用した発信、通話転送機能、映像や音声ミュート機能、着信時モード選択、自動応答機能など

があり、さらに、IPテレビ電話機能以外にも、ウェブページ表示や E メール送受信機能もある。日本語、中国語、英語に対応。

公衆インターネットでのアシストフォンの使用には、月額基本料 2,800 円(税抜き)のサービスを提供している。インターネットでIPテレビ電話を使用する場合はIPアドレスの入力が必要になるが、このサービスに加入すると、同社が提供するサーバー接続経由での通信となり、専用の番号を割り当てることでユーザその番号で相手側のアシストフォンに1024ビットでの暗号による映像通話ができる。また、使用にあたっての顧客サポート対応も行っている。

「2,800 円(税抜き)の低価格で暗号化した安心な映像通信ができ、なおかつ、顧客サポートのサービスも提供している。世界どこにいてもインターネット環境があればこのサービスを利用できるため、たとえば中小企業などにおいてサポートが付いたテレビ会議サービスを低コストで導入ができる。今後オプションとして、多地点テレビ会議接続や映像配信サービス(1対10万)なども検討している。」(同 西本氏)

アシストフォンは、すでに地方銀行や製造メーカ、建設、商社、全国 FC チェーン、医療機関、損保、テレビのパラエティー番組で生中継用にも使用されている。

導入したある銀行では本店に150台、支店に400台(1店舗あたり約4台)を設置。支店の来店客へ本部からアシストフォンを使い遠隔窓口対応として活用されている。

建設会社の例では、本社、支社、営業所、現場事務所などで40台を導入。たとえば、施工現場においてデジタルビデオカメラなどで録画した映像をアシストフォンに接続し再生することで、現場から本社などへの報告がよりわかりやすく行えるようになったという。作業員の点呼、朝礼、安全講習などを遠隔地から行うことも可能になった。

FC チェーン店では、310台導入。遠隔で本部からFC店舗へトレーニングやマネージメント講習などが行えるようになり、店舗へのスーパーバイザーやインストラクターの派遣回数を抑えることができるようになった。



intrassistfon(イントラアシストフォン)

「業種を問わずいろいろな企業でアシストフォンを利用させていただいており、企業でのミーティング用途以外にも、遠隔手話サービスや自動着信機能を使った遠隔防犯システムとしてアシストフォンを活用されているところも増えてきた。今後は、IPテレビ電話の機種を増やしたりして事業の強化を図りたいと考えている。ビジネス向けで外部端子などの機能を絞った廉価タイプや、あるいはコンシューマー向け機種も開発が完了し今夏発売予定となっている。」(同西本氏)

### 日本タンバーク、PC上で動作するSIP対応ビデオ会議システムを発売、一人一台のビデオ会議が実現

日本タンバーク株式会社(東京都港区)は、PC上で動作するSIP対応ビデオ会議システム「TANDBERG Movi(モビ)」の日本市場向けの販売を5月31日から開始した。

タンバークは、これまで、デスクトップ型やセットトップ型の専用ビデオ会議端末や3G携帯でのビデオ会議システムを提供してきたが、TANDBERG Moviによって、同社のビデオ会議システムの製品ラインナップは、専用の端末からPC向けのソフトウェアまで包括的に提供できるようになる。今までビデオ会議は専用会議室に制限さ

れていたものが、企業で一人一台のビデオ会議が可能になると日本タンバークでは考えている。



#### TANDBERG Movi(モビ)

この TANDBERG Movi を企業のユーザが日々業務で使用する PC にインストールすることで、あとは、Web カメラ、ブラウザ、そしてインターネット接続があれば、Movi 間のビデオ会議はもとより、タンバークの他の専用端末などのビデオ会議も行える。

TANDBERG Movi はクライアントライセンスとして社内配布は無料だが、同時接続ライセンスベースでの導入費用はかかる。

「導入構成によって Movi は、同時接続1ライセンスあたり1万円程度での導入も可能。但し、同時接続数は、最大 300 としている。」(日本タンバーク) 多地点接続する場合は、別途 MPS などが必要になる場合がある。

日本タンバークは、Movi の主な販売先を、中堅から大企業向けを中心に、既にビデオ会議システムを導入している企業や、出張先や在宅勤務などでのビデオ会議用途を検討している企業などに提供していきたいと考えている。同社では、年間 100 社への販売を見込んでいる。販売は同社の

代理店からとなる。

TANDBERG Movi は、個々の PC へのソフトウェアのインストールを必要とせずクライアント側のブラウザ上で動作するもので、サーバー上にインストールした Movi 用のソフトウェアでクライアント側を一元管理する仕組み。その結果、クライアント側の PC の負荷を軽減するとともに、たとえば、TANDBERG Movi のバージョン管理もサーバー側のソフトウェアをアップグレードするだけで、クライアント側も最新のバージョンに自動的に対応する。



#### TANDBERG Movi サーバー

サーバーは、Linux サーバーを採用した 19 インチ 1U タイプ。ネットワークインターフェイスには、1Gbps まで対応したイーサネットポートを4口装備。他のタンバークの端末と同様に、同社が提供するビデオ会議用の運用管理システム TMS(TANDBERG Management System)で管理する。

TANDBERG Movi は、SIP プロトコルに対応しているが、その場合通信接続は、768kbps まで可能。映像符号化には、H.263、解像度は、CIF と SIF に対応。「H.264 は、PC への負荷が高いという面もあるため、今後のロードマップ上で検討している。」(日本タンバーク) 音声は、G.711、G.722 に対応、エコーキャンセラを内蔵。全二重通信(双方が同時に通話することができる)をサポート。

Movi から他の Movi や専用端末等への通信の仕方は、会議招待メール上に表示されるリンク、あるいは社内イントラネット上のリンク、あるいは、Movi が持つ電話帳の3つのうちの一つを、マウス操作でクリックするだけで簡単に相手に通話コールを開始することができる。Movi が PC 上で

動作するという利便性を活用したものの。

「TANDBERG Movi のユーザ操作を非常にシンプルにした。」(日本タンバーク) 操作画面は、ブラウザの中央に Movi の画面が表示され、電話帳・URI アドレス選択、通話開始・終了、リダイヤルの基本ボタンのみで日常のビデオ会議が簡単に行えるように「最小限の操作環境を提供するために工夫をした。」(日本タンバーク)

また、Movi は、SIP ベースだが、H.323 や H.320 のビデオ会議端末との接続は、タンバークの多地点接続装置「TANDBERG MPS」を経由して他端末との接続が可能となっている。つまり、基本的に多地点でのビデオ会議には、TANDBERG MPS あるいは、多地点機能を内蔵した同社のビデオ会議端末(MXP)などを使用する。

Movi の推奨 PC システムは、Microsoft Windows XP SP2。「Vista は、現在テスト中。」(日本タンバーク) Microsoft Windows Internet Explorer 6.0 以上、ハードウェアの必要最小構成は、1.5Ghz Intel Pentium M または同等製品、RAM は 512MB。

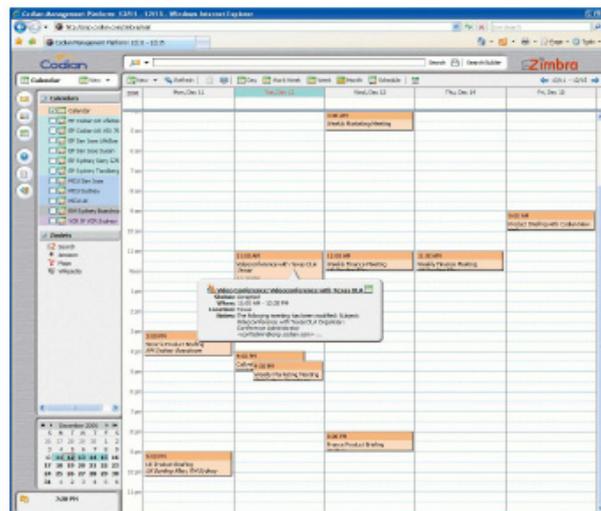
## メディアプラス、Codian 社の多地点接続テレビ会議用管理ツールの国内発売開始

株式会社メディアプラス(Codian 正規輸入販売店)は、Codian 社初の多地点接続テレビ会議用管理ツール「Codian Management Platform(コーディアン・マネージメント・プラットフォーム、CMP)」の日本国内販売の開始を発表した。

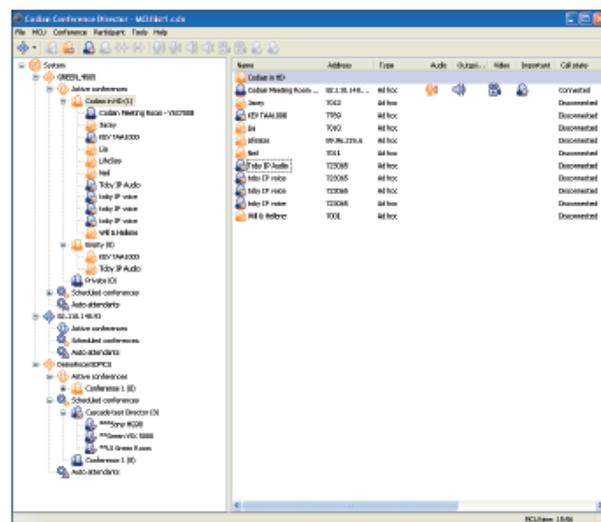
Codian Management Platform ( CMP ) は ”Codian Scheduler”と”Codian Director”の 2 製品から構成される管理ツール。「それぞれ拡張的で高度な管理機能を備え、シンプルで直感的なデザインを有している。」(メディアプラス)

Codian Scheduler はカレンダー型ウェブブラウザ、及びメールクライアントを使用し、視覚的にカンファレンスのスケジュール管理を行うソフトウェア。複数の権限レベルによりカンファレンス作成を各ユーザが行い、会議確認の為のメールを自動送信できる操作性を持つ他、ネットワーク帯域までを

も含めたテレビ会議リソースを効率的に配分し、複数の同時開催カンファレンスをよりスムーズに行うこともできる。



Codian Scheduler - ブラウザー画面表示



Codian Director - ブラウザー画面表示

Codian Director は、大規模な多地点接続環境までスケラブルに制御することが出来る管理ツール。「複数のカンファレンスを同時に行う大企業やサービスプロバイダに最適の製品とと思っている。」(メディアプラス)

Codian MCU4500 シリーズをはじめ、MCU4200 シリーズ及び MSE8000 シリーズを制御し、リアルタイムで全てのリソースを一覧表示して管理することで、複数の管理者によ

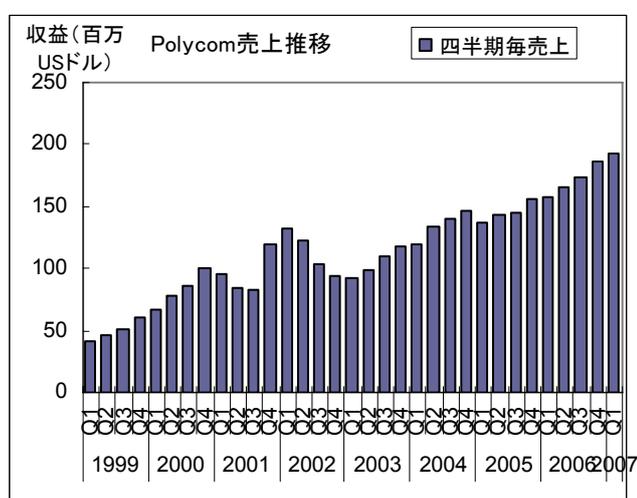
り複数の MCU を簡単に共有/管理/運用することが可能。

メディアプラスは、テレビ会議システム及びオーディオ会議システムの輸出入、販売、設置工事及びサポート業務を中心に事業を展開。主要取扱製品には Codian 製品の他にも、TANDBERG 社のテレビ会議システム、ClearOne 社の音声会議システム等もある。

## 【海外 news】業績発表（2007 年 1-3 月期）

\* Nasdaq 上場等企業の業績レポート。

### ポリコム（米）



米ポリコム社の 2007 年第一四半期(1 月-3 月期)の業績は、1 億 9270 万 USD(約 233 億円)過去最高の四半期の売上を記録した。前四半期より 3%増、前年同期の 1 億 5770 万 USD から 22%増となった。売上には、最近買収した SpectraLink 社と Destiny Conferencing 社の売上が含まれているが、それらを除いたポリコム社単独でも過去最高の売上となった。

製品毎での売上は、ビデオ会議端末が 56%、音声会議端末が 29%、ネットワークシステム装置が 15%。ビデオ会議端末、音声会議端末と前年同期比で、それぞれ 30%、38%と強い伸びを記録。ビデオ会議端末については、6 四半期連続の売上増。

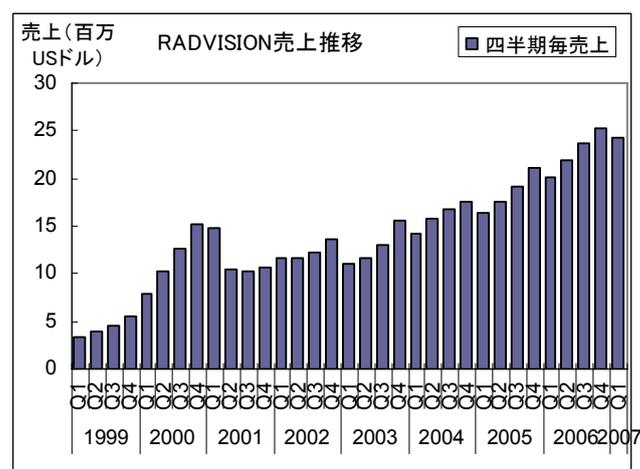
ビデオ会議端末(HDX シリーズや VSX シリーズ)の出荷台数は、18,045 台の過去最高を記録。デスクトップ(PVX)の出荷は、11,299 シート(ライセンス)。同社開催の業績発表

で、CEO Robert C. Hagerty 氏は、「HD 対応のビデオ会議システム HDX シリーズは、今四半期で売上が 3 倍に増加した。」と述べることで、今後の HD ビデオ会議システムの感触に期待感を見せた。

地域別では、北米が売上の 53%、EMEA(欧州、中東、アフリカ)が 25%、アジア太平洋が、19%、ラテンアメリカが 3%。

同じく業績発表で、CFO(財務担当最高責任者)の Michael R. Kourey 氏が 2007 年の事業の見通しを述べ、その中で、「製品ラインナップとしてテレプレゼンス、HD 対応ビデオ会議システム、ボイス over WiFi、そして RMX 2000 などの新製品やビデオ会議向けのポート需要の拡大など、ポリコムにとっては事業にさらなるドライブをかける好材料が揃っている。」と自信を見せる。

### ラドビジョン（イスラエル）



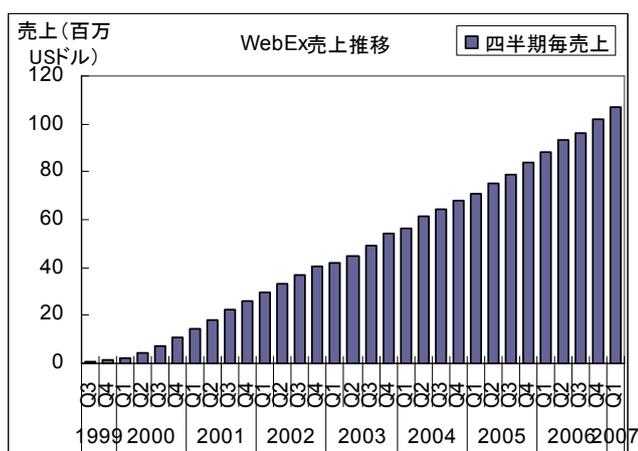
イスラエルのラドビジョン社の 2007 年第一四半期(1 月-3 月期)の業績は、季節変動の影響を受けやすい第一四半期ではあるが、過去の第一四半期の売上と比べ、最高の四半期の結果となった。売上は、2,430 万 USD(約 29 億 8400 万円)。キャッシュフローはプラスで推移しており、1 億 5580 万 USD(約 191 億円)の現金を保有。無借金経営。

同社は MCU など製品販売部門である NBU(Network Business Unit)と、プロトコルスタックなどを販売する TBU(Technology Business Unit)が 2 つの事業柱となっているが、今四半期の売上内 NBU 分は、1,830 万 USD(約 22 億

5000 万円)、TBU 分は、600 万 USD(約 7 億 4000 万円)。

ラドビジョンの地域別売上は、北米が 62%、欧州中東アフリカが 24%、アジア太平洋が 17%。専用テレビ会議端末向け、Click To Meet 向け、3G向けと好調で、アジア太平洋地域では、日本と韓国で「ProLab 3G-324M Test Solution」の販売などがあつた。

### WebEx Communications(米)



WebEx Communications 社の第一四半期は、1 億 720 万 USD(約 132 億円)の過去最高記録となった。前年同四半期の 8850 万 USD(約 109 億円)から 21%の増。保有現金残高は、3 億 9600 万 USD(約 486 億円)。

シスコシステムズが買収を発表(3月)して以来、最終的に公開株式の 90.1%(46,339,278 株)公開買付完了を 5 月 29 日に発表、買収手続きが完了した。

### 海外カンファレンスレポート



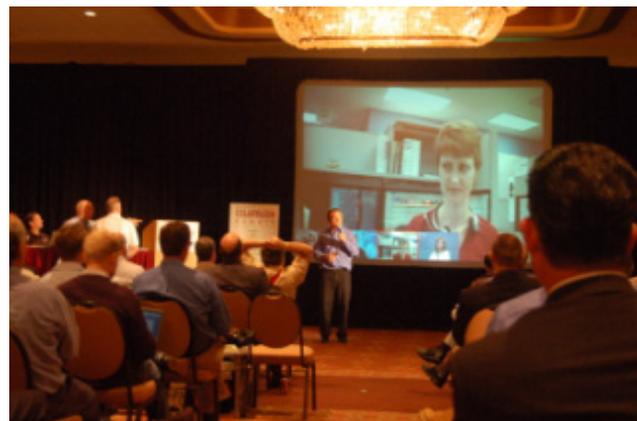
**WR Collaboration Summit 2007**  
San Francisco, California, USA

CNAレポート・ジャパンの橋本は、アメリカサンフランシスコで 6 月 5 日から 7 日まで開催された会議システム専門調査会社米 Wainhouse Research (ウェインハウスリサーチ)社主催のカンファレンスに参加してきた。業界の主要なベンダーがスポンサーとして協賛しており、業界関係者、ユーザ、有識者など多数が参加した。

5日の日は、午後から十数社によるプレゼンテーション及び展示、そして6日、7日は有償参加者向けで、市場動向、事例(学校、医療機関など)や、業界キーマンによるパネルディスカッションが行われた。

やはり主要テーマは、ユニファイド・コミュニケーション、テレプレゼンス、テレビ会議のHD化(ハイデフィニション)で、参加者の関心が高いことが伺われた。

来年のアメリカでの WR Collaboration Summit 2008 は、2008 年 7 月 16 日～18 日 アメリカ マサチューセッツ州ケンブリッジにて開催予定。



午後半日十数社による 10 分/社ショートプレゼンテーション



各社のテーブルブース



市場動向について講演する WR 社 Andrew W. Davis 氏 - 「ここ数年のワールドワイドのテレビ会議端末市場伸び(売上と出荷台数)は将来を見通したとき非常に勇気づけられる結果を示している。テレビ会議端末は今後 HD を標準搭載していくことになるだろう。」



有料カンファレンス参加者



パネルディスカッション



WR Collaboration Summit 2007

<http://www.wainhouse.com/sanfran07/>

## セミナー・展示会情報

### 【国内】

第2回 Codian 技術セミナー  
～HD(ハイデフィニション:高解像度)多地点接続テレビ会議～

日時:7月13日(金) 13:00～16:00

会場:アルカディア市ヶ谷 私学会館 4F 鳳凰の間

主催:株式会社メディアプラス

詳細・申込:

<http://www.mediaplus.co.jp/news/070611.html>

グローバルコミュニケーション改革セミナー

日時:6月25日(月) 15時00分～(受付 14時30分～)

会場:沖電気工業株式会社 虎ノ門ショールーム

新虎ノ門ビル(OKI本社ビル) 2階プレゼンテーションルーム

主催:沖電気ネットワークインテグレーション株式会社

詳細・申込:

<http://www.okinw.co.jp/event/2007/070625.html>

### 講演資料

5月16日に日経BP社主催の次世代コミュニケーションフォーラムにて講演させていただきましたが、私のセッションにご参加いただきました方いらっしゃいましたらこの場にて御礼申し上げます。有り難うございました。

その際の配布資料をCNAレポート・ジャパンのウェブサイトにもアップいたしました。もしご興味ございましたら、下記からダウンロードしていただければ幸いです。

<http://cnar.jp/home/CNAReportJapan.pdf>

### 編集後記

CNAレポート・ジャパンへ、日々ご協力、ご支援誠に有り難うございます。今号もご覧頂きまして有り難うございました。

WRサミット 2007 に急遽参加してきました。やはりホットな話題は、ユニファイド・コミュニケーション、HD、テレプレゼンス。北米の業界の人達やユーザの人達と意見交換をさせて頂く良い機会でした。参加にあたっては、WR社にお世話になりました。

次号も宜しくお願い致します。

CNAレポート・ジャパン代表 橋本 啓介